会議結果報告書

令和6年6月20日

会議の名称	志木市文化財保護審議会
開催日時	令和6年5月29日（水）午後3時～5時
開催場所	志木市役所 中会議室2-2
出席委員	深瀬克委員、上野守嘉委員、新田泰男委員、眞保昌弘委員 (計 4人)
欠席委員	大木雄平委員 (計 1人)
説明員職氏名	生涯学習課 徳留主幹、大久保主査、石川主任、木村主事計 (計 4人)
議題	(1) 会長及び職務代理者選任 (2) 令和5年度文化財保護関係事業報告について (3) 令和6年度文化財保護関係事業計画について (4) 文化財関係補助金について (5) 今後保護を進めるべき文化財について
結果	(1) について、会長に深瀬克委員、職務代理者に上野守嘉委員が選任された。 (2) について審議した結果、承認された。 (3) について審議した結果、承認された。 (4) について審議した結果、承認された。 (5) について審議した結果、承認された。 (傍聴者 0人)
事務局職員	柚木教育長 今野教育政策部長 生涯学習課課 土崎課長、徳留主幹、大久保主査、石川主任、木村主事

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 委嘱状交付

3 あいさつ

4 議事

(1) 会長及び職務代理者選任

会長に深瀬克委員、職務代理者に上野守嘉委員が選任された。

(2) 令和5年度文化財保護関係事業報告について

<説明員>

資料により説明。

<質疑応答等>

委員) 郷土資料館・旧村山快哉堂・埋蔵文化財保管センターの運営・事業企画は誰がしているのか。

事務局) 郷土資料館の運営は令和5年度からシルバー人材センターへ委託している。特別展などの事業に関しては、生涯学習課が企画運営している。旧村山快哉堂は、いろは親水公園の指定管理者である SHIKISAI パートナーズが運営しており、実際は SHIKISAI パートナーズがシルバー人材センターへ委託している。事業については、SHIKISAI パートナーズ企画とボランティア団体である快哉堂友の会で企画運営している。埋蔵文化財保管センターの運営・企画は生涯学習課である。

委員) 令和5年度補助金交付の実績は？

事務局) 田子山富士塚の維持管理・入山対応といった事業に対して、田子山富士保存会へ350,000円、羽根倉富士嶽の草刈りなど維持管理補助として羽根倉富士嶽維持管理保存会へ22,000円の補助を行った。

委員) 郷土資料館は子どもの来館者もカウントしている。利用実績を知るためにも、旧村山快哉堂でも子どもの来館者カウントを指定管理者に頼めないか。

事務局) 指定管理者へ相談してみる。

委員) いろは樋のモニュメントについて、見学者も非常に多いことから、修繕について県土事務所へ働きかけをして欲しい。

事務局) 朝霞県土事務所とは引き続き、相談・修繕依頼をしていく。

(3) 令和6年度文化財保護関係事業計画について

<説明員>

資料により説明。

〈質疑応答等〉

委員) マイクロフィルムの電子化作業について、既に劣化して閲覧出来ない資料もあるのか。

事務局) 数年前に電子化について文化財保護審議会より意見をいただいてから、庁内で調整を始めた。一昨年から作業を始めたが、既にフィルムが癒着し閲覧出来ない資料があると報告を受けている。

委員) 電子化作業は一昨年13本、昨年15本の実績とのことだが、残り105本も残っている。作業のピッチを上げられないのか。

事務局) 昨年度までで劣化しやすい材質のフィルムで作業可能な資料の電子化は概ね完了した。

委員) 諸家文書目録と突合させて、資料が活用できるようにしてほしい。

事務局) 諸家文書目録も電子化されておらず、突合もアナログ作業になるのですぐには難しいが、資料が活用できるよう作業を続けていきたい。今年度も継続して貴重な資料がこれ以上損なわれない様に努めていく。

委員) 発掘調査の報告書が、地点名と遺跡名で発刊されているものがある。なにか規則性があるのか。

事務局) 国庫補助事業や受託事業等の事業種別により、表紙の色や書名の取扱いを変えている。

委員) 小中学校で社会・歴史の授業で使用している副読本があるが、郷土の歴史が記載されている。文化財保護審議会も監修等で関与できないか。

事務局) 学校教育課と相談する。

委員) 今年度大規模な発掘調査が予定されているとのことだが、現地説明会は開催しないのか。

事務局) 出土状況などを加味し検討していく。

(4) 文化財関係補助金について

〈説明員〉

資料により説明

〈質疑応答等〉

委員) 敷島神社への補助金は、調査費用が主になるのか？

事務局) 保存活用計画の策定にともなう調査が目的になる。

委員) 調査の結果、修理になった場合は国の半額補助などの確約がされるのか。

事務局) 保存活用計画に明記される修理事業であれば、国の予算の中でも優先的に予算確保されるようになる。そのための事前調査を今年度から実施していく。

委員)「志木の田子山富士塚」保存活用委員会・保存活用計画策定委員会について、委員の構成や、どんな会議がされたのか、文化財保護審議会でも報告してほしい。

事務局) 了解した。

委員) 田子山富士塚の保存活用計画の作成について、修理がメインに据えられている様に思う。どうしてなのか。

事務局) 今年度の経費では主に基礎調査になっている。活用は田子山富士保存会が既に精力的に活動してくれている。

委員) 保存と活用のバランスを考えながら、要望・課題を計画に盛り込んでいってほしい。

(5) 新規指定文化財について

<説明員>

資料により説明。「西原大塚遺跡108号住居跡出土の人面把手付土器ほか84点」について新規指定について意見を伺う。

<質疑応答等>

委員) 名称についてだが、人面把手付土器単品ではなく、出土遺跡の出土品も含めた一括指定になるということか。

事務局) そうである。銅印や富壽神寶など、同じように指定している。

委員) 指定で異議無し。

4 報告事項

○県文化財保護協会評議員会、研修会 5月31日開催

5 閉会